

令和7年度学校推薦型選抜

小論文課題

[設問]

次の文章を読んで、「A I時代の医師の役割」について、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

A I（人工知能）の実力は多分野で発揮されており、医療も例外ではありません。画像の異常を発見したり、遺伝子解析から病気を診断したり、患者さんの検査データと膨大な医療情報を突き合わせて最適な治療法や薬剤を選び出し医師に提示したりするなど、A Iの利活用が急速に進んでいます。

（中 略）

しかし、現行の手術支援ロボットはまだまだプロトタイプであり、医師の遠隔操作に従って動くレベルです。麻酔の領域でも最近、患者さんの睡眠レベルや筋肉の反応、呼吸状態や循環動態を複数のモニター機器で監視し、それらの変化を読み取って自動的に適切な薬剤を適量注入し、安定した麻酔状態を作り出す麻酔支援ロボットが試みられていますが、手術中に起きる複雑な事象、たとえば予期せぬ出血やショック、心停止などへの迅速な対応は、命を守る麻酔科医のレベルには程遠いといっているでしょう。

それでも近未来には、破格の次元で進化した手術ロボットや麻酔ロボットが登場するかもしれません。A Iロボットが自ら判断し、自ら手術や麻酔管理をするようになる、そのとき医師は何をすればいいのでしょうか。ロボットが仕事しやすいようにサポート役に回るのか、ロボットがやりたくない仕事を探して食いつなぐのか。はたまたロボットが失敗したときの後始末に回るのでしょうか。

医療の世界も含めて人間の仕事の中のプログラム可能な部分や効率的な領域は、A Iロボットに代替される可能性が高いでしょう。しかし、どの職業も人間の暮らしの中にあります。仕事のやりがいや達成感、責任感や同僚意識、そして感謝や奉仕など、A Iロボットには代替不可能な領域です。

ですから、どの職業もその一部分（ときに大部分）をA Iが代替することは可能ですが、全体を代替することはできません。A Iロボットに仕事が奪われる人は、医療でいえば、チーム医療のできない人、責任感のない人、カネもうけ主義の人たちということになるでしょう。

【朝日新聞 ほか先生の医療のススメ 外須美夫『A Iに仕事奪われる人は』より抜粋】

2023年6月11日 朝刊 23ページ 佐賀全県

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

※承諾番号 25-0817